國會難局の由來

國會解散して天下の政談は唯だの一事に止まり今後の成行如何は一般に注目する所あり時事新報は明治十四年國會の開設を約束したる其時の事情より約束中九箇年の間に行はれたる政略の方針と民心向背の趨勢とを論述し尚ほ其解散後を善くするの策を論じて之を國會難局の由來と題し本月二十八日より一週餘の紙上に掲載す可し凡そ朝野の士人にして政治の思想あらん者は此論說を一讀して今日の解散は今日に起りたるに非ず開設の約束九箇年の間に醞したるものなりとの由來を了解して政治社會に方向を誤るみとおきを得べし

明治二十五年一月二十三日

時事新報社

時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價郵送料廣告料は左の如し

一枚二錢〇一箇年前金六圓〇月賦金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇郵便切手は直接ニ編輯スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢〇郵便料ハ中等

時事新報廣告料（前金）

一行	二行	一行	一日限	一日以上六日迄	七日以上
二十五錢	十三錢	十一錢	十錢五厘		

但五號活字四字詰

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社あるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を填塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

共に往事を忘る可し

今の民黨が政府に反對する其論鋒の向ふ所を見るに多くは過去の失政を咎めて其不信用を鳴らし之に由りて現在の處置を妨げんとするもの〻如し例へば昨年の議會に提出されたる鐵道整理海軍擴張を始め諸種の新事業の如き議會の衆論は事業其物に反對するに非ず唯年來の不始末を嘆々して斯る不始末の政府なるが故に新事業を托するの信用なし云々とて恰も過去の失策を抵當として不信用の罪を負ひ政府に歸したるものあり我輩の每度述べたる如く明治政府年來の失策を挙ぐるときは一々數へ可らずして不信用の責は免る可らず殊に今の老政治家中には直接に其責に任ずるものもあるべしと雖も是れは既に歷史の一話に遺るのみにして今更咎めするの必要おかる可し若しも然らずして既往に溯り一々その次第を尋ねて責の歸する所を求めたらば獨り政府の當局者のみに非ずして或は今の民黨中にも自から責を分つものある可し政府の失策中に就て非難の最も多きものは財政の始末に外あらざれば一例として茲に其始末を記さんに御も我國財政の不始末を引起したる其原因は明治十年西南の戰爭後に政府が國庫の不足を補ふの手段として不換紙幣を濫發したるの一事に在りと云はざるを得ず不時の戰爭に莫大の金を費したる其不足を補ふの手段は當局者の務にして非難す可きに非ずと雖も他に種々の手段もある可き中に殊に拙策なる紙幣の發行に出でたるは思慮の足らざる所にして其結果は忽ち紙幣下落銀貨騰貴の相に現はれ一國の經濟社會を攪亂せしめたる其責は之を時の當局者の失策に歸せざるを得ず政府は既に初度の失策を演じたる後の當局者として救濟の任に當るものは大に深重して再度の失策おからんみを是れ務む可き筈なるに其後の處置を見れば只管銀紙の平衡を目的として急激の回復策を斷行し一方に於ては利息の割合の下落公債證書の騰貴を見て回復の目的を達したりとて手を拍て雀躍欣喜の最中に一方に於ては急激手段の爲めに非常の迷惑を蒙り貧富一夜に地を代へ昨日の富豪は今日の素寒貧に化したるが如き慘狀を一般に現はしたるを再度の失策と爲し强ひて利息の割合を一時に引下げたるが爲めに世間に株券熱を催ほして私設鐵道其他諸種の工事會社を勃興せしめ其結果は餘剩おき融通資本を一方に吹收して市場の不融通を來したるのみか會社の株主は何れも半途にして株金の拂込に苦支へ爲めに商工業共に倒れの慘況を呈して以て昨今の不景氣を醸したり之を第三回の失策とす同じ財政の始末に就て都合三回の失策を演じたる其失策は明治政府の失策に外ならざれども今民黨の論鋒に倣ひ一々既往に溯りて其不都合を咎むるときは時の當局者に責を歸するの外おくして其責は自から民間の中にも及ばざるを得ず且又民黨の人々が藩閥政府云々とて他を攻擊する其筆鋒は實强藩の士人等が多年政權を執りて爵位背雲の榮華を專にしたるが故に之を不條理なりとして攻擊するみとおらんと雖も今の政黨にて首領に推す所の先輩も矢張り强藩出身の功臣にして年來藩閥政府の中に在りて其政略を共にし其榮華を共にしたる人々にあらざれば既往に溯るの攻擊とあれば實は自から攻擊するものと云はざるを得ず左れば民黨にして愈々右の通りの魔倍ならんには政府の方にても之に對して殿擊の辭に乏しからざる可し詰り水掛論にして其成行は政治の公論を一身上の爭に化するに過ぎざれば雙方の爲めに斯りて恥らざるのみか我輩は政治上の公德の爲めに斷然此種の私爭を排斥せんとする者あり思ふに今の政府は明治初年來の政府を受繼ぎたるものに相違おけれども其當局者は既に幾回の更迭を經て今日は殆んど其地位を一新したるのみあらず國會の開設は明治の政治社會に一段落を畫し恰も專制時代の幕を終りて立憲政治の新舞臺を現出したるものなれば其新舞臺に出動するの新役者が既に終りたる前幕の所作を云々して互に相爭ふみとは決して妙なりと云ふ可らず民黨の人々も政府の當局者も共に往事を挙げて之を一夢に附し去り國會開設立憲代議の新天地に新趣向を運らすの工風肝要おる可し

雜報

○露國の準備　目下我邦に滯在せる佛國の外交官にして近頃浦鹽斯德をも巡視したるみが他へ送りし書狀中の一節なりと云ふを見るに英國と露國は早晩衝突せざるべからず雨國共亞細亞に於て互ひに惡ひ〻の方向に向つて進む中に露國に於てはトランスカスピヤン鐵道あるが故に〻スコーの兵を印度の國境に送るには數日を過ぎざるべく浦鹽斯德にては特別巡洋艦隊を設けて事あるの日は支那海に露國の國旗を翻し以て香港の押へとなさんが爲め同港の雖事は未曾有の速力を以て進歩中おり左れば一萬人の兵を容るべき兵營、陸海軍貯庫等夜を日に繼て工事を急き軍艦修繕用の大船渠二箇所は既に落成せり目下同港の艦隊は之を二つに分ち一は巡洋艦六艘を以て成る即ち前に謂ゆる特別巡洋艦隊おり又他の一隊は專ら同地方の防禦に備ゆるものにして之を西比利艦隊と稱し全く砲艦水雷艇を以て成ると云ふ

○勝たば逃げん　死せる孔明生ける仲達を走らしたる例しもあれば勝軍の場合に逃げると云ふ事も强ちおきには非らざるべけれども左りとは隨分珍らしき事なら可し近頃全國各撰擧區に於ては撰員候補者の競爭非常に劇しく一方に宴會抔を開いて撰擧人の歡心を買ふと同時に他方に於ては壯士を驅りて之を威嚇する等恩威並び施して以て勝を制せんとする其有樣は盛々實々にして蹌倪す可からざる者あり而して已に反對せる候補者に向ては當に壯士をして演說會又は懇親會を妨げしむるのみならず彼れ若し當撰せば刺殺すべし抔と聞くも忌はしき流言を放ちて相手の膽を冷す者あり現に東北の某縣に於ては壯士の函嚴甚しく間々右の如き風說もあるより選會の席に臨ひに先ち祖先の墓に謁し家内の者と永盃を交し意氣凛然死を決して出席したる候補者もありと云ふ斯る次第おれば首尾よく敵を倒して當撰の勝を占むるの場合には敵方の壯士が如何なる事を爲すやも測り難く其れみそ刺殺さるゝやも知れざれば安閑として家に居るみと能はず東京其他何れの處にても遙早く安全の場所に逃げ延びるに如かずと今より其身構を爲す候補者もありとぞ

○大坂府に於ける民黨議員の撰出は如何　大坂府の各撰擧區内の第一區より四區迄は最早撰出議員も組々決定したるも此中には民黨の勢力甚だ鋭く今日の形況にては先づ當撰は六ヶ敷き方にて實業者か勝を制するおらんとの說は信に近かきが如し而して其の他第五區より九區までの間には第六區に大井憲太郎氏あり第七區に東尾平太郎氏あれども前者大井氏の部内には菅瀨同俱野景孝氏は擬擧有權者の多き牧方郡部内に根據を占め中々勢力あるのみおらず大井氏の根據たる八尾郡部内に切込居れば大井氏の味方は防戰に解りおきも甚だ苦戰の模樣あり次に第七區内の東尾平太郎氏は格別の强敵なく無論全勝を得るの豫定おりしに何ぞ圖らん中途より富田林郡役所の書記たりし出水彌太郎氏が切出して同氏は義に郡民より郡長に採用あらん事を政府に向て請願せし程の人望家おれば東尾氏の爲め中々の强敵おる上に勝山孝三江馬朝道兩氏も同區より切出せば隨分勢力あり左れば東尾氏の味方は錦郡郡を根據となし他の五郡に向て中堅を突かんとすれども出水勝山江馬の三氏は倉々土後際とおり全勝の見込覺束なき時は或は聯合ひ合同するの恐れもあれば東尾氏も中々油斷はおらざるべし又第八區の當選員横山勝三郎氏は能に見る處ありしが其程再撰を斷念して新聞紙に廣告したれば中立主義の兒山胸氏が多分當撰するならんと云ふ

○大坂銀行者及實業者の撰出議員　大坂商業會議所は其他實業家の組織せし大坂實業團體に於ては前號の電報に記載せし如く今回選擧の衆議院議員は同地商工會議員の推薦の通り第一區は栗谷品三第二區外山修造第三區浮田桂造第四區村島僧平第五區本春右衛門の五氏を推すに決定したれば去る二十日午後三時より先づ第二區内の撰擧者五百九十餘名町堺卯樓に招待して右の人以を演述し翌廿一日は招待して漸次各區に及ぼす

○熊本縣下自由國權二派　今回の撰擧に關しては各に告ぐる書おり數千部に及ぶ會を開き同黨の主義にて刀折れ矢盡きて若容れざる所おれば夫れ爲し國權黨にては政談演說